

省エネルギー

富士フィルムでは省エネルギーと炭酸ガス排出量削減は密接な関係があるため、その推進については、「省エネ・炭酸ガス削減推進委員会」が当たっています。

2001年度の国内6事業所の実績は、生産量の増加や生産品目の変化などにより、対前年度2.5%のエネルギー増になりました。今後、更なる生産工程の合理化や生産技術の改善を行い、省エネに務めていきます。

エネルギーの有効活用や新エネルギーの導入

省エネルギーや地球温暖化防止対策として最近注目を集めているのが、コジェネレーションによるエネルギーの有効活用や、太陽光発電、燃料電池などの新エネルギーです。富士フィルムでは1990年の足柄工場を皮切りに、1991年に富士宮工場、2000年に吉田南工場にコジェネ型発電機を導入、また1998年に「写ルンです」循環生産自動化工場に太陽光発電を導入するなど、積極的に対応しています。2001年度の太陽光発電量は200百万KJを超えています。

CO₂排出量削減

「省エネ・炭酸ガス削減推進委員会」は2001年度にCO₂排出量削減について

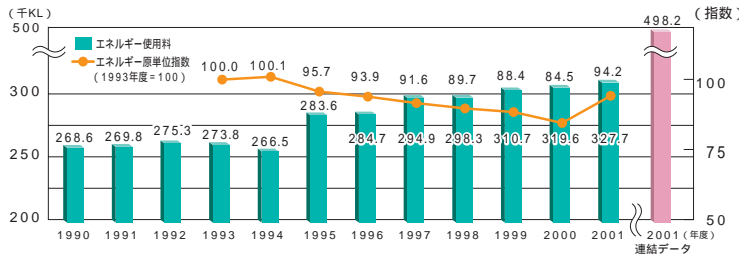
- ・CO₂排出量削減について、国の目標との整合性をとる
 - ・富士フィルムグループとしての目標を設定する
- の2点から目標を見直しました。そして新たに2010年度のCO₂排出量を、1990年度比で、
- ・富士フィルム単独では9%以上削減する
 - ・国内富士フィルムグループの合計では6%削減する。
- ことを決定しました。

2001年度の国内6事業所の実績は、生産量の増加や生産品目の変化などにより、対前年度2.7%の増加となりました。CO₂排出量の削減対策として、富士フィルムではクリーンなエネルギー源として注目されている都市ガスを、富士宮工場で2003年2月から、小田原工場で2003年7月から、また足柄工場で2004年5月から導入します。2001年度は都市ガス導入のために、ボイラーの仕様変更や工場内にパイプラインを敷設するための準備を行いました。

水の使用量の削減

きれいな水と空気を保つことは富士フィルムの環境保全の目的であり、豊富で清浄な水は写真感光材料の生産にも不可欠です。富士フィルムでは有限な資源である水の使用量にも配慮して生産活動を行っています。2001年度は生産量が増大したにもかかわらず、水の循環使用を推進するなどして前年度よりも水の使用量を削減しました。

エネルギー使用量の推移 原油換算値（富士フィルム国内6事業所のデータ）

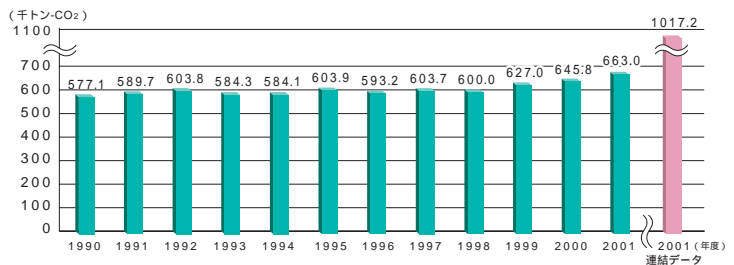


吉田南工場のコジェネ型発電機



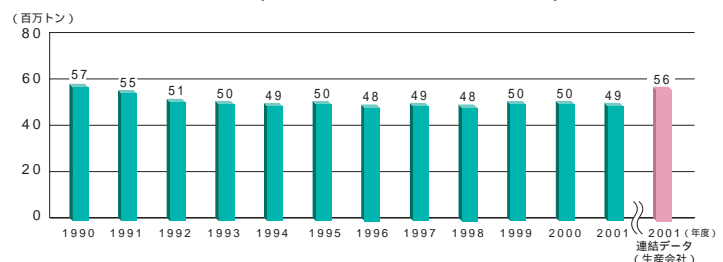
富士宮工場の都市ガス対応設備

CO₂発生量の推移（富士フィルム国内6事業所のデータ）



* 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づいて算出した値です。なお、CO₂排出量は富士フィルムへのコジェネ型発電機導入により、その分電力会社による火力発電量(CO₂係数：0.612kg/kwh：東京電力火力発電所受電端平均CO₂排出原単位(1995年度実績))が減るとの考えで計算しています(「事業者の環境パフォーマンス指標2000年版」(環境省)による)。連結データに関しては、海外の電力、燃料使用量についても日本国内のCO₂排出係数を用いてCO₂排出量を算出しています。

生産活動に使用する水の使用量(富士フィルム国内6事業所のデータ)



* 昨年までは地下水の使用量を集計していましたが、今回は上水道水も集計対象に含めました。